

## 第311回薬事委員会報告

日時 令和7年 8月 6日 (水) 15:00~15:45

場所 病院会議室A

出席者 堀、高松、川浪、今福、津川、戸川、小松、長谷川、諸藤、神村、池内

欠席者 三宅

## 議 事

## I. 新規採用医薬品

	適否	製品名	削除医薬品
1	適	アリドネパッチ 27.5mg	アリセプトD錠10mg
2	適	ベルスピティ錠 2mg	サイトテック錠 200 $\mu$ g
3	適	オンボー皮下注 200mg オートインジェクター	リレンザ
4	適	アダリムマブ BS 皮下注 80mg ペン 0.8mL 「CTNK」	コスパノン錠 80mg
5	適	アダリムマブ BS 皮下注 40mg ペン 0.4mL 「CTNK」	アダリムマブ BS 皮下注 40mg ペン 0.8mL 「FKB」
6	適	アイリーア 8mg 硝子体内注射用キット 114.3mg/mL	アイリーア 8mg 硝子体内注射液 114.3mg/mL
7	適	ランマーク HI 皮下注 120mg シリンジ 1.0mL	ランマーク皮下注 120mg
8	適	ファセンラ皮下注 30mg ペン	ファセンラ皮下注 30mg シリンジ

削除医薬品が先発品の場合は、削除決定後自動的に院外専用医薬品となる

## II. 後発医薬品 (GE) への切替

	適否	AG/BS	製品名	削除医薬品
1	適	-	ロクロニウム臭化物静注液 50mg/5.0mL 「マルイシ」	エスラックス静注 50mg/5.0mL

## III. 試薬・製剤原料等

該当なし

## IV. 新規院内特殊製剤

該当なし

## V. 臨時購入医薬品 (院内専用 患者限定)

新規購入品目 (令和7年5月10日~令和7年7月4日)

	製品名	申請科	申請理由
1	イムデトラ点滴静注用 1mg, 10mg	呼吸器内科	左上葉小細胞肺癌術後再発
2	オータイロカプセル 40mg	呼吸器内科	ROS1 陽性肺腺癌
3	テブダック点滴静注用 40mg	産婦人科	子宮頸癌再発
4	オデフシ配合錠	腫瘍・血液・感染症内科	HIV 感染症
5	オムジャラ錠 150mg	腫瘍・血液・感染症内科	骨髄線維症
6	ベレキシブル錠 80mg	腫瘍・血液・感染症内科	再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫
7	プロテカジン OD 錠 10mg	消化器内科	出血性貧血、過形成性ポリープ、慢性胃炎
8	ゾルゲンスマ点滴静注	小児科	脊髄性筋萎縮症
9	ランプレンカプセル 50mg	腎臓内科	M. abscessus による腹膜炎
10	カボメティクス錠 20mg	腎泌尿器外科	根治切除不能又は転移性の腎細胞癌
11	ジスロマック錠 600mg	総合診療科	後天性免疫不全症候群
12	テッペーザ点滴静注用 500mg	内分泌・糖尿病内科	活動性甲状腺眼症
13	オルミエント錠 2mg	脳神経内科	関節リウマチ
14	クアルソディ髄注 100mg	脳神経内科	筋萎縮性側索硬化症
15	ミグシス錠 5mg	脳神経内科	片頭痛
16	メサペイン錠 5mg	麻酔科	癌性疼痛

VI. 院外専用医薬品（令和7年7月4日時点）

アンブロキシコール塩酸塩 DS 小児科用 1.5%	イブグリース皮下注 250mg	エブリスディ錠 5mg
ドロエチ配合錠	ビオスリー配合散	ビオチン散 0.2%
ビンゼレックス皮下注 320mg	ペマジール錠 4.5mg	

VII. 販売名変更  
該当なし

VIII. 販売中止

（販売中止に伴う切替採用申請）

	販売中止となる採用薬	在庫消尽予定時期	切替採用薬
1	ロキソプロフェン Na ゲル 1% 「NP」	2026年7月	フェルビナクスチック軟膏 3% 「三笠」
2	キンダベート軟膏 0.05% ※1	2025年12月	-
3	ラコールNF 配合経腸用半固形剤 ※2	2025年11月	-

※1 キンダベート軟膏の代替薬は、同ランクのステロイド外用剤であるロコイド軟膏 0.1%、スピラゾン軟膏 0.3%は、キンダベート軟膏 0.05%となる

※2 ラコールNF 配合経腸用半固形剤の代替薬は、改良品であるイノソリット配合経腸用半固形剤（2025年4月薬審にて承認済）となる

IX. 供給遅延・供給停止等のお知らせ

（供給遅延・供給停止等とそれに伴う切替採用申請）

	供給遅延・供給停止となる採用薬	切替採用薬
1	沈降破傷風トキソイド「生研」※1	-
2	カンレノ酸カリウム静注用 200mg 「サワイ」	ソルダクトン静注用 200mg
3	ケナコルト-A 筋注用関節腔内用水懸注 40mg/1mL ※2	-

※1 沈降破傷風トキソイドの代替薬はない

※2 ケナコルト-A 筋注用関節腔内用水懸注の代替薬は、各種適応のある副腎皮質ホルモン剤となる

X. 副作用報告

2025年5月～6月の副作用報告件数は27件であり、そのうち非重篤なものは27件、重篤なものは0件であった。

XI. 同種同効薬：採用医薬品の適正化  
該当なし

XII. その他

1. 使用量低頻度医薬品の院内削除  
該当なし

2. 適応外・禁忌医薬品使用に係る申請（2025年5月～6月）>

	申請科	薬品名	使用目的	倫理委員会審議の必要性
適応外	小児	献血ベニロン-I 静注用	急性脳症	なし(薬事委員会)
適応外	消化器外科	イオパミロン注 他1件	瘻孔造影	あり(医療倫理委員会)
適応外	眼科	ミカファンギン Na 点滴静注用	真菌性角膜炎	なし(薬事委員会)
適応外	産婦人科	バイアスピリン錠	妊娠高血圧症候群既往	なし(薬事委員会)
適応外	内分泌糖尿病内科	ゾレドロン酸点滴静注	原発性副甲状腺機能亢進症に伴う高カルシウム血症	なし(薬事委員会)
適応外	整形外科	リファンピシンカプセル	左全人工膝関節置換術後感染	なし(薬事委員会)
適応外	形成外科	オクトレオチド皮下注	術後リンパ漏	あり(医療倫理委員会)
適応外	消化器内科	アダリムマブ BS 皮下注 40mg ペン	クローン病	なし(薬事委員会)
適応外	腎泌尿器外科	エゼチミブ錠	乳び漏	なし(薬事委員会)
適応外	腎泌尿器外科	オクトレオチド皮下注	乳び漏	あり(医療倫理委員会)

3. 薬事ニュースNo. 112 （資料1）

4. 後発医薬品使用体制加算について

2022年4月以降の後発医薬品の割合は90%以上、カットオフ値50%以上である。

後発医薬品使用体制加算1（47点→87点：入院期間中1回に限り、入院初日に算定）の取得継続が可能となった。今後も、現状を維持すべく後発医薬品の使用を推進していく。

	4月	5月	6月
全医薬品の規格単位数量 ①	600,654	603,351	579,768
後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数量 ②	288,686	278,489	259,293
後発医薬品の規格単位数量 ③	271,216	261,377	244,585
カットオフ値の割合 ②/①	55.2% <sup>※1</sup>	54.5% <sup>※1</sup>	53.3% <sup>※1</sup>
後発医薬品の割合 ③/②	94.01%	93.9%	94.3%

※1 令和7年度薬価改定を踏まえた診療報酬上の臨時的な取扱いでの数値

5. バイオ後続品使用体制加算について

令和6年度診療報酬で新設され、(1)直近1年間の使用回数が100回以上かつ、(2)≥80%、(3)≥50%でバイオ後続品使用体制加算（バイオ医薬品を使用する患者について入院初日に100点）の取得が可能となった。(1)については、年間使用回数が100回以上であることを確認した。

	置き換え割合80%以上	置き換え割合50%以上
バイオ医薬品の内、バイオ後続品の規格単位数量の合計 ①	1,731	6,993
バイオ医薬品の規格単位数量の合計 ②	1,791	9,614
① / ②	(2) 96.6%	(3) 72.7%
	(イ) エポエチン (ロ) リツキシマブ (ハ) トラスツズマブ (ニ) テリパラチド	(イ) ソマトロピン (ロ) インフリキシマブ (ハ) エタネルセプト (二) アガルシダーゼベータ (ホ) ベムシズマブ (ヘ) インスリンリスプロ (ト) インスリンアスパルト (チ) アダリムマブ (リ) ラニビズマブ

6. 院内廃棄薬について

2025年5月と6月における院内廃棄薬の総金額は、67,896円であった。上位品目は、コンサータ錠27mg（20,690円）、カベルゴリン錠1mg（15,325円）、ブコラム口腔用液2.5mg（11,821円）であった。廃棄理由はすべて期限切れであった。

7. その他

2025年5月15日現在の総採用品目数は2,589品目であり、うち後発医薬品は576品目（22.1%）である。

次回薬事委員会は、令和7年10月1日（水）15時より病院会議室Aで行う。